

場づくりこそが実は重要

モノサシを作る過程で見てきたことの一つが人と自然のつながりの再認識でした。そしてもう一つは「その地域がどうありたいか?」「理想的な姿とはどういうものだろうか」という議論です。

地域の理想の姿を参加者が話し合う姿を見ていた時に気が付いたのですが、モノサシを作るということはいわば作業です。しかし同時に知恵の出し合いをする場であり、この「場」こそが最も重要ではないかと感じ始めました。

このことに気が付いて以降、開催した地域でのワークショップは「地域のよりよい未来とは?」「どんな地域にしたいですか?」などの問いかけをまず初めに行い、そのためにどんな要素が必要で課題は何であるかという問いかけに変え、キーワードを出してゆきました。

その結果、よりよい未来(持続的という視点)の為には4つの横断的要素が必要であることが見えてきました。

- 自然資本から得られる生態系サービス(自然の恵み)
- ひと(人材)
- 仕組み(行政や地域のルール・サービス)
- 情報と経済(内外との流れ)

ある地域での実例から少し細かく見てゆきます。

